

委員会の進め方と今後の予定

令和5年3月7日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核燃料・バックエンド研究開発部門
地層処分研究開発推進部

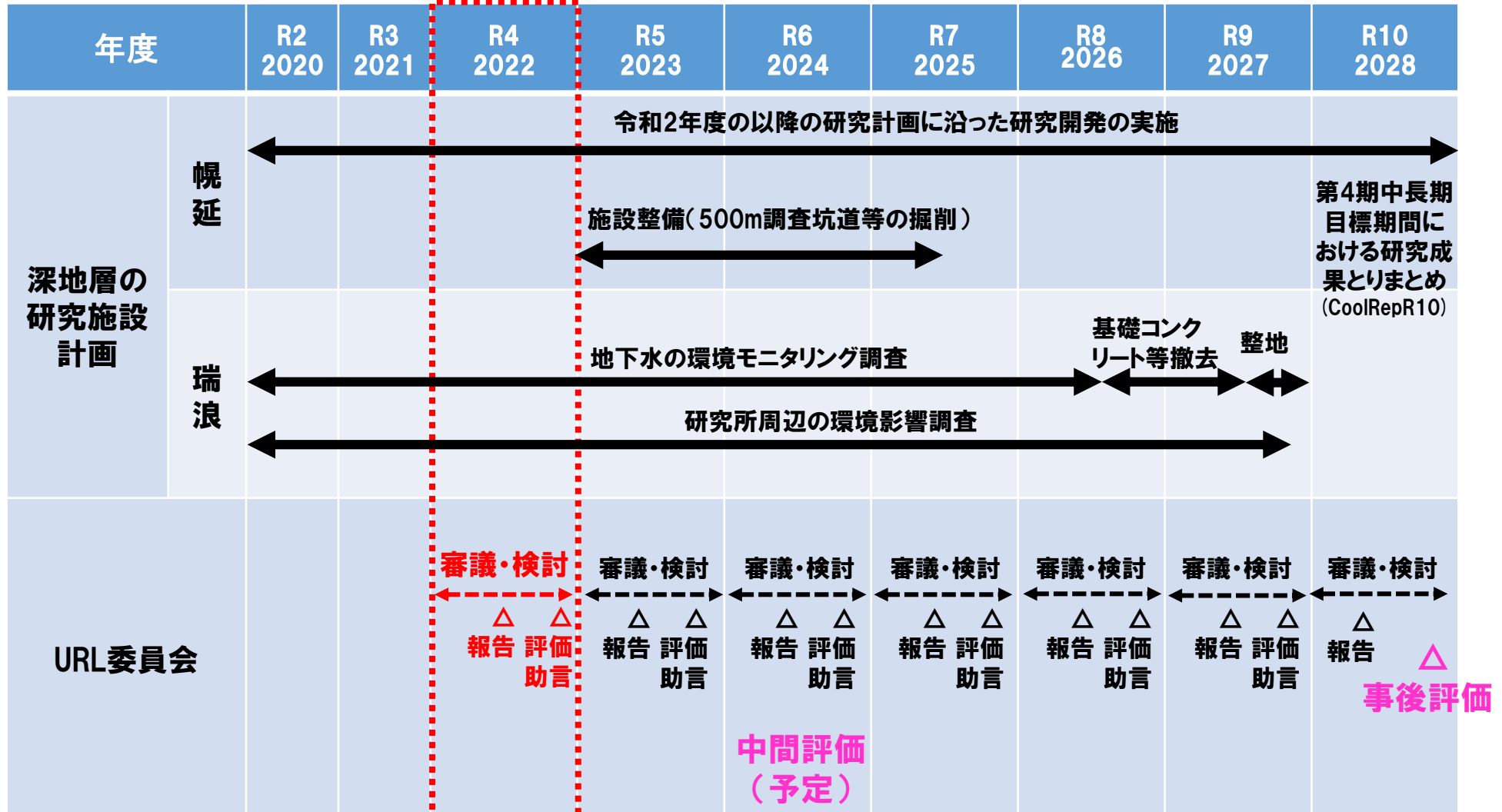
報告内容

- 1. スケジュールについて**
- 2. 審議検討の進め方について**
- 3. 審議検討結果の取りまとめについて**

1. スケジュールについて(全体)

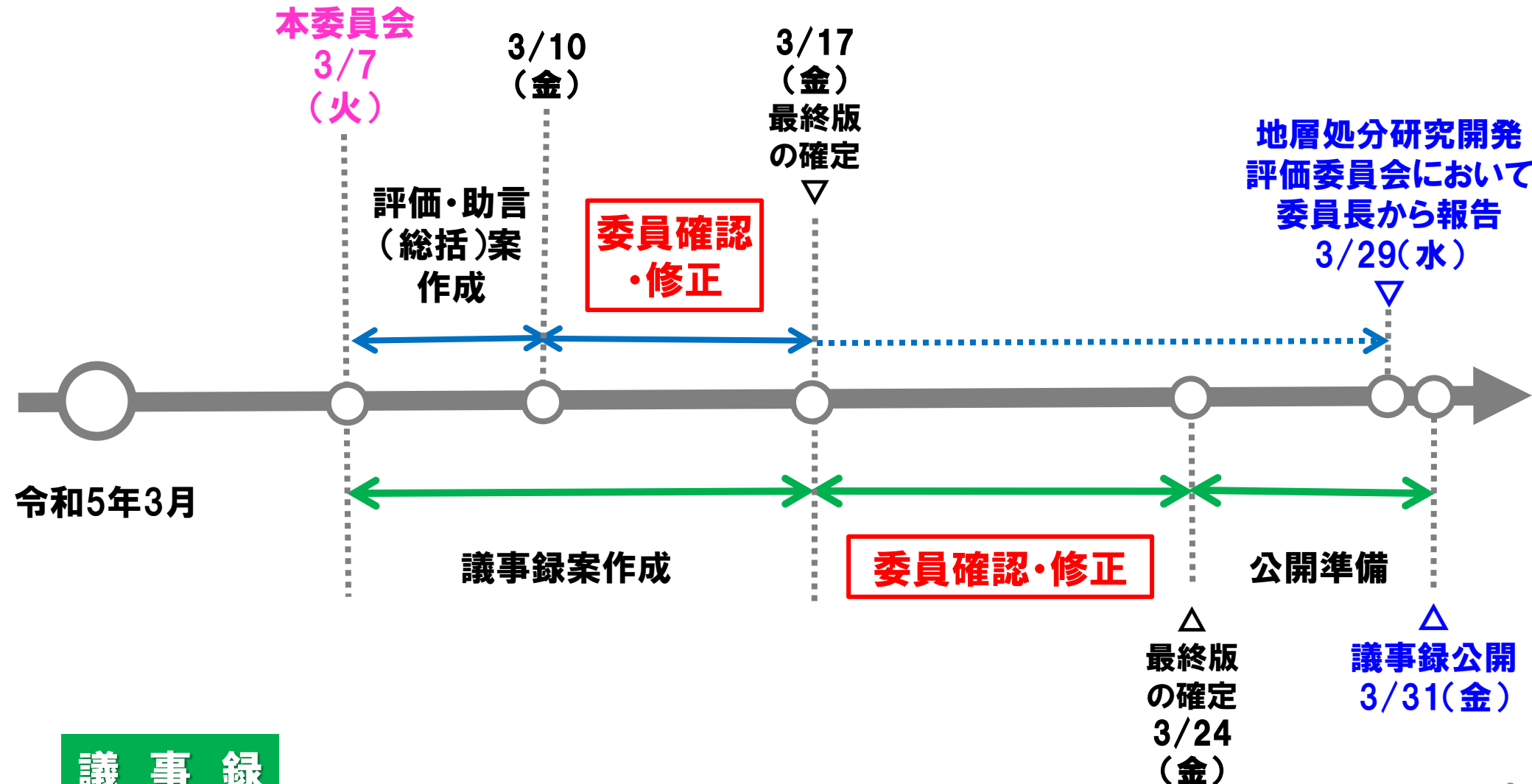
第3期中長期目標期間
(H27年度～R3年度)

第4期中長期目標期間
(R4年度～R10年度)



1. スケジュールについて(詳細)

評価・助言(総括)



2. 審議検討の進め方について

審議検討の内容

幌延

必須の課題に関する令和4年度の研究開発成果(必須の課題)と令和5年度の計画について

瑞浪

地下水の環境モニタリングや成果の取りまとめ等に関する令和4年度の実施結果と令和5年度の計画について

審議検討結果の取りまとめ

技術的評価

委員会での審議検討結果に基づく総括

技術的助言

委員会での審議検討結果に基づく総括

3. 審議検討結果の取りまとめについて

令和4年度の成果について

【総括】

令和4年度の幌延深地層研究計画については、……

【特記事項】

- ・ ○○の試験については、……

（審議検討結果の総括のイメージ）

令和5年度の計画について

【総括】

令和5年度の幌延深地層研究計画については、……

【特記事項】

- ・ ○○の試験については、……

幌延の評価の観点

- ・ 計画に沿って着実に実施されているか
- ・ 研究の方法や結果は高い科学的・技術的水準を有しているか 等

瑞浪の助言の観点

- ・ モニタリングデータの結果等に対するアドバイス
- ・ 成果の具体的活用に対するアドバイス 等

参考① 令和3年度における評価・助言総括の結果

幌延深地層研究計画について

令和3年度の成果に関しては、各必須の課題で予定していた原位置・室内での調査試験や解析が進められており、最終的な目標達成に向けて必要なデータ、知見が着実に得られていることを確認した。特に、これまでに得られている地質環境特性データが、工学技術・安全評価に関する研究開発に有効に活用されており、成果の信頼性向上に寄与していると評価できる。

令和4年度の計画に関しては、「令和2年度以降の幌延深地層研究計画」に沿って、令和3年度までの研究開発の成果が集約されるとともに、今後の坑道における研究が総合的かつ効果的に進められる内容となっており、妥当と考えられる。

超深地層研究所計画(瑞浪)について

令和3年度において、深度500mに及ぶ坑道の埋め戻しが当初の計画に沿って、無事故で安全に完了したこと、ならびに工事期間中のモニタリングデータを継続的に取得できていることは、評価できる。

令和4年度以降においては、これまでに得られた貴重な研究資源(瑞浪計画全体の研究データ、ボーリングコア、埋め戻しの計画や作業に関する情報および地下水モニタリングデータなど)の共用化を図るとともに、埋め戻しに伴う環境(地下水圧など)の変化を段階的かつ三次元的に確認できるように情報を整理し、追跡可能な形で確実に管理する取り組みが望まれる。

参考② 国内の地層処分に関する最近の主な動向

GX実行会議

- ✓ 令和4年12月22日にGX実行会議(第5回)が開催された。
- ✓ 総理より、「文献調査の実施地域の拡大を目指し、最終処分関係閣僚会議を拡充するなど、政府を挙げて、バックエンドの問題に取り組んでいきます。」との発言があった。

最終処分関係閣僚会議

- ✓ 令和4年12月23日に最終処分関係閣僚会議(第7回)が約5年ぶりに開催された(前回は平成29年7月8日)。会議では、経済産業省より高レベル放射性廃棄物の最終処分の現状と課題について報告された。
- ✓ 令和5年2月10日に最終処分関係閣僚会議(第8回)が開催され、経済産業省より高レベル放射性廃棄物の最終処分の実現に向けた政府を挙げた取組の強化について報告されるとともに、基本方針の改定案が提示された。

地層処分研究開発調整会議

- ✓ 令和4年度末に現行の全体計画が終了することに伴い、次期(令和5年度以降)の全体計画の策定を行うため、地層処分研究開発調整会議を再開した。
- ✓ 第7回(令和4年6月6日)、第8回(令和4年8月10日)、第9回(令和11月10日)が行われ、第10回(2月20日)が実施された。

国のWG(放射性廃棄物WGおよび地層処分技術WG)における文献調査段階の評価の考え方に関する検討

- ✓ 第22回地層処分技術WG(令和5年1月24日)では、最終処分法に定められた要件の具体化や項目ごとの基準などについて審議が行われた。

参考③ 国外の地層処分に関する最近の主な動向

ドイツ

処分実施主体である連邦放射性廃棄物機関(BGE)は、2022年12月19日付けのプレスリリースにおいて、2017年9月から開始されたサイト選定手続きの中で、最終処分にとって好ましい地質学的条件が存在すると判断される90区域からさらなる絞り込んだサイト地域を2027年に提案できる見通しを公表

原子力環境整備促進・資金管理センターHP(下記)より一部抜粋
<https://www2.rwmc.or.jp/nf/?p=30190>

フランス

放射性廃棄物管理機関(ANDRA)は、2023年1月17日付のプレスリリースにおいて、ムーズ、オート＝マルヌ両県の県境近傍のビュールでの地層処分場(Cig é o)の設置許可申請書を政府に提出したことを公表

原子力環境整備促進・資金管理センターHP(下記)より一部抜粋
<https://www2.rwmc.or.jp/nf/?p=30223>